

課題13 国際社会の成り立ちを知ろう

グローバル化の進行に伴い、私たちは地球規模の様々な問題に直面しています。それら問題は、経済、環境、食糧、平和、安全など様々な領域に及び、一国の取り組みや努力だけでは対応や解決が困難であるところに特徴があることから、国際社会の協力体制やルール作りが不可欠です。そこで必要とされるのが、国際社会における国家間のルール「国際法」です。資料として添付した、松井芳郎著『国際法から世界を見る[第3版]』(東信堂)抜粋を読み、伝統的な国際法の基礎と、現在の国際社会がどのように形成されてきたのかについて考えてみましょう。

- (1) 国際法の歴史はいつからはじまったのでしょうか。諸国家が、国際法の必要性に気付いた歴史的出来事や、その背景、影響を踏まえて考えてみましょう。
- (2) 19世紀までの伝統的な国際法は、国家をどのように分類していましたか。また、その分類がその後の世界に及ぼした影響について考えてみましょう。

《参考図書》

- 松井芳郎『国際法から世界を見る[第3版]』(東信堂、2011年)
- 岡義武『国際政治史(岩波現代文庫)』(岩波書店、2009年)